



旧石川村に遺された石仏と石塔を歩く

～庶民の願いと祈りと^{おそ}畏れと～

2022年3月27日、30日

梶浦 清敏 記

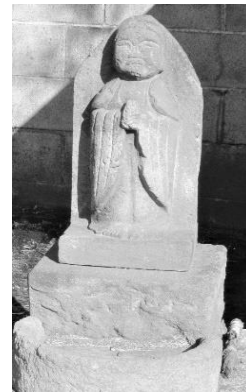
いつの時代に建てられた石仏や石塔にも、その一つひとつに名もない人びとの願いや祈りがこもっているはずです。

よく見かける「庚申塔」にはどのような意味があるのだろうか? 「道祖神」に人びとははたして何を願ったのだろうか? などの視点から石川地区を歩くことになりました。

石川天神社や佐波神社では、石仏・石塔が地区開発にともなって集められています。山田橋のもとでは引地川の「水神さま」、諏訪神社の先にある「いぼ取り地蔵尊」なども興味深いものがあります。また民家の駐車場にあった、名もない老女の像には暖かい眼差しがありました。

そんな中でも、石川地区には“子育て”にまつわる石仏が多いことに気がつきました。子供が生まれても6歳まで育つのは半分くらいと思われていた時代のものです。

「子育て地蔵」といわれるものがいくつかあり、中でも石川諏訪神社の前の「めぐみ地蔵」は子供の身長よりも大きな立派なもので、屋根のある建屋の中に大切に安置されていました。



老女の像



石川諏訪神社前のめぐみ地蔵

南鍛冶山交差点から少し入ったところにある「子育て地蔵」は祠の中で小さな赤ちゃんを抱えています。その日もお花が供えられていました。

またケーヨーD2の近くには「乳母明神」、お宮そのものは質素なおもむきでしたが、お乳が十分でない母親がすがりつく思いで祈りを捧げたのではないかと・・・その様子が目に浮かぶような気がします。石川市民の家の前の地蔵尊には、亡くなった童女の名が彫られているのも子育てへの切実な思いが見てとれました。

最後に伺った安藤さん宅の庭にある「鬼子母神」は子供を守る、文字通り母神です。これも子供が元気に育って欲しいとの願いがこもっています。かたわらに植えられているザクロの木とともに、巨大なウチワサボテンが印象的でした。

一日の中で様々な石仏・石塔・石碑を見ましたが、それぞれに込められた願いや祈りや畏れを感じることができた、充実した地名探訪でした。 (2日間の参加者数 のべ51名(役員含む))